

第 16 回 EAJ 中部レクチャー開催報告 中部のスタートアップを考える

中部支部運営委員 辻 篤子

2022 年 11 月 4 日(金)、日本工学アカデミー中部支部(EAJ)主催、同関西支部の協賛による第 16 回 EAJ 中部レクチャー「中部のスタートアップを考える」が開催された。MTG Ventures 代表取締役の藤田豪氏による「起業支援と次世代リーダー育成の最新事情」と題した講演に続き、名古屋大学大学院情報学研究科の安田孝美教授が加わって「中部のポテンシャルを世界へ」をテーマに対談を行った。中部圏はものづくりで圧倒的な強みを持ち、大企業も多い。その恵まれた状況ゆえに、ベンチャーが育ちにくかった。中部圏ならではの強みを起業につなげるには？ 議論は白熱した。今回も前回に引き続き、登壇者か現地会場(名城大学)に集合し、オンライン参加の視聴者に音声と映像を配信するというハイフレックス方式で行われた。概要は以下の通り。

藤田氏は大学 3 年だった 1995 年、ベンチャー関連のフォーラムに参加、マイクロソフトのビル・ゲイツ氏とバージングループのリチャード・ブランソン氏、そしてベンチャーキャピタルの話を聞いたのがきっかけでこの分野に関心を持ち、卒業後、ベンチャーキャピタルの最大手に入社し、2018 年に主に美容と健康分野のベンチャーに投資する MTG Ventures 代表取締役に就任した。24 年間名古屋で投資に携わってきた経験をもとに、地域のスタートアップのエコシステム構築に取り組んでおり、中部地域のスタートアップの現状と課題について語った。

まず、スタートアップとは何か？ 藤田氏の定義によれば、「自分たちの力で世の中を変える覚悟を持ち、共感する仲間を集め、外部資金の調達を行い、課題解決に挑戦し、急成長をめざす起業家およびチーム」だ。特に重要なのが覚悟。たいていはうまくいかない。その時に心が折れないためには覚悟の強さが欠かせないのだ。そして、共感する仲間を最低でも 2 人、できれば 3 人もつことだ。

今、スタートアップが注目されている背景には、日米のこの 10 年の経済成長を見たときに、GAFAM を除くと日米に大きな差はなく、たった 5 社が米国の成長を支えてきたという現実がある。こうした 5 社を生み出せるかどうか、世界で戦える会社を作れるかどうか、日本の今後がかかっている。

なぜ日本で起業が少ないのか。まず「失敗に対する危惧」(37.6%)、「身近に起業家がない」(19.5%)、「学校教育」(15.0%)と続く。大企業が多くて起業が少ないと言われ続けてきた名古屋はおそらくその典型だろう。起業家が最も影響を受けたのは「身の回りの起業家」(29%)としている一方で、起業家が身近にいる割合は 19%でしかない(中国は 46%)。また、起業家の社会的評価も決して高くない。だが、ベンチャーへの投資額は 2021 年に 7800 億円と 2013 年の約 9 倍に増えている。起業家の数は少なく、ベンチャーキャピタリストは増えておらず、金だけじゃぶじゃぶ、というのが現状だ。

そうした中で、中部地区のエコシステムをいかに構築するか。必要なのは、①コーポレートベンチャーキャピタル(CVC)の量と質の向上、②マインドセット、③危機意識、④子供の起業家教育だという。つまり、中部地域は大企業も多くて恵まれた地域だからこそ、敢えて起業するというマインドセット、そしていつまでもこの状況は続かないかもしれないという危機意識を持って新しいことに取り組むことだ。

これに向けてさまざまな動きも出ている。2020年には愛知県、名古屋市、浜松市が、政府のスタートアップ・エコシステムのグローバル拠点都市に認定され、以前はバラバラだったが、連携して取り組みが進められている。2024年には、鶴舞に国内最大級のインキュベーション施設もできる。CVCの量と質の向上をめざし、中部CVC連絡会ができ、クローズドの議論を行なっている。大学の取り組みも進み、名大でも起業が増えている。高校、小学校などでも起業家マインドを育成しようという試みも広がってきた。

地域の金を地域のスタートアップに投資しようという中部地域シード特化ファンドを立ち上げたところで、続々と新しい会社が生まれている。「日本の未来を創る若者たちを応援してほしい」と述べて、講演を締めくくった。

安田教授との対談では、寄せられた質問も取り上げながら議論が進められた。まず、「現状は？」との問いに、藤田氏は、昔は先生の起業が多かったのに対し、今は学生の起業が増えてきたこと、そしてファンドの金もついて成功確率が上がってきたことを挙げた。周りに起業経験者がいないという状況も変わりつつあり、学生の相談も増えてきた。これが5年、10年続けばかなり広がっていくはずという。

米国では失敗しても挑戦する勇気が評価されるが、日本ではどうか、との質問には、契約の内容も変わって、かつてのように上場できなければ金を返せということもなくなり、失敗しても学生は困らないなどリスクが小さくなってきたので、たとえ失敗してもやろうというふうになってきた。「バットを振っていればいつか当たる、逆に、振らなければ当たらない」ということだ。先生や親たちも少しずつ理解するようになってきた。

一方、企業が抱え込んでいる優秀な人がユニコーンをめざせるような環境作りに必要なものは、との安田氏の問いに、藤田氏は「トップのマインドセット」と即答。今のトップは10年後にはいない。逃げ切れる。しかし、次の世代は違う環境で生きていかなければならず、そのために必要なことをやっておこうとするかどうか。そういうトップがいるところはすでにやっている。そうした動きを横目に見ながら追随することへの期待も述べられた。

政府がスタートアップに6兆円投資するなどの動きがあるが、どのような企業がトップに立てるかとの質問には、「うーん、難しい」としばらく考えた後に、「日本で事業展開するなら、ヘルスケア、メディカル分野でまず国内で結果を出し、アジア、中国へというのがよさそう」と答えた。加えて、「日本が勝てる業種、業態は減ってきている。勝てる分野としては、医療、美容くらいしか残っていない。早く見つけて、やれるメンバーでやりきれば伸びしろはある」とした。安田氏も「高齢社会ならではの

社会課題に挑む、あるいは日本ならではの思いやりを活かしたビジネスだろうか」と応じた。

「GAFAM は、ネットにおける、線形ではない、飛び抜けたアイデアを育てたが、中部経済圏で新たな発想のサービスやビジネスを生むには何が必要か」との質問には、「製造業が強いので、どうしてもものづくりと何か、といった発想になりがちだが、そこにこだわりすぎない方がいい」という。最近のスタートアップはハードウェアをつくる場所はほとんどない。ものづくりでない方が、外から人を呼べるし、人の流動化につながるのではないかとした。

また、中部のスタートアップは、B to B が多く、消費者向けの B to C が少ない特徴があるが、B が大きいと、抱える従業員の C も大きい。大企業に使ってもらって広げることもあり得る。製造業の強さをどう生かすか、だ。

そして、2 人が一致したのは、何か新しいことをやろうとするときに、安田氏の表現では「極めて熱量の高い人」が、1 人か 2 人必要、そういう人に権限を与えてやらせることが重要で、それができる会社は変化にも耐えられるということだった。

そして、中部圏でエコシステムを育てるための課題と可能性は、との問いに、課題は、金を稼ぐことに関する日本独特の慎ましさが依然としてあるのを変えていくこと、そして起業家をもっと評価されるようになることで、それには時間がかかる、しかし、一方で可能性として、例えば進学校で親の反対を押し切っても起業部へ、というような若者が増え、若者の中にチャレンジしようという意識が生まれてきたことを挙げた。スタートアップの世界では岐阜大旋風が知られ、男女を問わず、若者たちの挑戦が続いている。

では、そうした若者たちの斬新なアイデアと中部経済圏の底力の間で化学反応を起こすにはどうしたらいいのか。安田氏の問いかけに藤田氏は、リアルで会って話をすることが重要で、中部圏の企業や大学の優秀な大人たちがおせっかいを焼いて、優秀な子を引っ張り上げてくれれば、50 年後には確実に変わってくるとした。

最後に、エコシステム整備のために EAJ 中部支部が貢献できることは何か、との問いに、「経験値を持った人が揃っている。大学生たちの足りない部分を経験値で補って応援してほしい」と述べた。

岩井善郎・副支部長は「新しいものの価値は誰にもわからない。そこに挑戦する若者を見守っていくのが EAJ の役割」と述べて、シンポジウムを締めくくった。

当日の参加申し込みは 68 人、会員は 32% で、大半が外部の方で、関心の高さをうかがわせた。

謝辞

貴重な講演を行っていただいた MTG Ventures の藤田豪氏と名古屋大学の安田孝美教授、ならびに、本レクチャーに協賛いただいた関西支部の関係者各位に感謝申し上げます。



第16回 EAJ 中部レクチャー
in Webinar

2022年11月4日(金)
17:00~18:30

中部のスタートアップを考える

起業支援と次世代リーダー育成の最新事情 (講演45分+質疑)
藤田 豪氏 / 株式会社MTG Ventures 代表取締役
中部のポテンシャルを世界へ (対談30分)
藤田 豪氏 × 安田 孝美氏 / 名古屋大学 大学院情報学研究所 教授

主 催: 日本工学アカデミー 中部支部
協 賛: 日本工学アカデミー 関西支部

日本工学アカデミー (EAJ) 中部支部

タイムスケジュール

17:00 開会 (進行: 川澄 未来子 / EAJ中部 運営委員)
開会挨拶 (林 良嗣 / EAJ中部 支部長)

17:05 講演 <45分+質疑>
藤田 豪氏 / 株式会社MTG Ventures 代表取締役

18:00 対談 <30分>
藤田 豪氏
安田 孝美氏 / 名古屋大学 大学院情報学研究所 教授

18:30 閉会挨拶 (岩井 善郎 / EAJ中部 副支部長)

18:35 閉会

中部地区のエコシステム構築に必要なこと

- CVCの量と質の向上
- マインドセット
- 危機意識
- 子供の起業家教育

MTG Ventures



MTG Ventures

藤田 豪 (MTG Ventures)



Recording

Zoom Meeting